

伝わることの大切さ

2023年プロ野球日本一の阪神タイガース岡田監督は、「アレを目指して頑張ります！」と、選手がプレッシャーを感じないように優勝の二文字を避けてチームを盛り上げていきました。

ヒーローインタビューに答える選手もうっかり口にしてしまったら監督に申し訳ないと思ったのでしょうか、どんな質問でも「最高です！」と答えてたのが印象的でした。

勝った喜びを表現するには、まさに最高な言葉だと思いましたが、きっと選手は、球場まで応援に駆けつけてくれたファンへ「優勝を目指して頑張ります！」と言いたかったのではないかと思いました。社会のデジタル化によって、新しい言葉や言い回しがたくさん生まれてきていますが、困難な状況にあっても、自分の気持ちを伝えられる言葉の大切さを感じる一幕でした。

そういえば、私が小学生の時、読売ジャイアンツの長嶋選手に記者が「今日のホームランはどんな方法で打ったのですか？」と質問したところ「スッと来たから、グューっと引いて、パンと捉えて、グッと走って」と答えていたのを思い出します。子供心にかっこいいなあと憧れましたが、一体どうやって打ったのかは全く理解できませんでした。

先日、娘が「今日ね、会社の先輩にボロクソ褒められた！」と笑顔で伝えてきました。ボロクソと言ったら「怒られた」など、否定的な文脈に使われる言葉だと思っていたのですが今ではどうやら違う意味もあるようです。先日、コロナに罹患した私が熱に浮かされていると、またしても娘が言った一言、「お父さんが熱にうなされているよ、心配だなあ」と。正しい日本語も必要ではありますが、高熱を出して「あ～辛い、苦しい」と唸っていれば、確かに「熱に魔（うな）されている」の方が伝わる気がします。

この様に、私たちは、会話を通して相手に自分の気持ちや見たものをそのまま伝えようとしています。しかし、SNSが新たなコミュニケーションツールとなった今、感情の伝わらない会話が日常的となり、受け止め方によっては、「そんなつもりで言ってない」「そうだとは思わなかった」などのトラブルが後を絶ちません。手紙とは違い、瞬時に自分の気持ちを伝えることができる時代だからこそ、相手の心を読み取れる言葉が大切ではないかと思えます。

そもそも私たちは、この世に生を受けた時、言葉を持っていません。赤ちゃんが生まれた瞬間に「ねえ、お腹空いた」などと話すことはありません。成長と共に言葉を覚え、会話し、相手と意思の疎通を図っていきます。赤ちゃんは、言葉がお母さんやお父さんに伝わると身体いっぱい喜びを表現するように、言葉は相手の心へしっかりと伝わってこそ意味をもち、その人の行動にも変化をもたらせていくのではないのでしょうか。



令和5年11月6日から9日までの4日間、約90名の外国人留学生と交流する English Camp を開催し、一年生が英語での会話を親しみ、楽しみました。各生徒は、あれ、それ、これ、だけでも伝わる日本語での日常から離れ、「今日はいい天気です。」「私の趣味は絵を描くことです。」など、たとえ単純な会話であっても、これまで身に付けた英語の力で懸命に伝えていました。

そして、「YES！」と、留学生の笑顔で言葉が伝わったことが分ると、生徒は身体いっぱいうれしさを表現していました。そこで私は、閉幕式で次のようにあいさつしました。

Thank you for the four days. These 4 days we didn't learn about English but we learned with English. Importantly, for the conversations, I want you to keep the feeling that "it has been communicated", rather than just communicate something. Thank you

私は生徒に感想を聞いてみましたが、「最高です！」と笑顔で答えてくれました。各教室からは身振り手振りでも必死に気持ちを伝えようと努力する生徒の姿が学びの匂いとなって留学生の心を捉えていました。

令和5年11月